

夏季間における大会等の運営について

(一社) 宮城県サッカー協会

1 はじめに

2018年の夏は記録的高温が続き、この傾向はさらに進むであろうとの予測です。「過去5年間の暑さ指数(WBGT)の平均と2018年の暑さ指数(仙台)」(資料1)のデータを見ても、宮城県においても数年前とは比較にならないほど、気温が高くなっています。また、7月初旬から高温日が始まり8月下旬まで続いています。このような中、熱中症にかかる事例が数多く見られました。選手やスタッフ、審判員、観客の命と健康を守るため、本協会では「夏季間における大会等の運営について」の指針を出すに至りました。なお、以下に示す方針、対策については、JFA 熱中症対策に基づく内容としました。

2 基本方針

7、8月期間の協会主催の大会等(各種大会、フェスティバルなどの事業)は、原則として設定しない。従来この時期に設定している大会等については、時期を変更して開催するように努力する。また、共催の大会についても、共催団体とよく協議し、上記方針での開催を模索する。

万一、この時期に大会等を開催しなければならない場合は、以下の暑熱対策を講じ、選手等の健康・安全を最優先した運営を徹底することとする。

3 事前の準備

1) 大会スケジュールを余裕のあるものに設定する。

- ・大会期間を長くする。
- ・ピッチ数を増やす。
- ・午前の早い時間や夕方の時間帯に試合を行う。

2) 暑さ指数(以下WBGT)により、下記の対応ができるように準備する。

- ・WBGT=31℃以上となる場合は、試合を行わない。
- ・WBGT=28℃以上で試合を行う際は、『JFA 熱中症対策』①～⑩の対策等を講ずるようになる。
- ・WBGT=25℃以上で試合を行う際は、『JFA 熱中症対策』①～⑦の対策等を講ずるようになる。

『JFA 熱中症対策』

- ① ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
- ② ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
- ③ 各会場にWBGT計を備える。
- ④ 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を準備する。
- ⑤ 観戦者のために、飲料を購入できる環境(売店や自販機)を整える。
- ⑥ 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。
- ⑦ クーリングブレイクまたは飲水タイムの準備をする。
- ⑧ 屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない。
- ⑨ 会場に医師、看護師、BLS(一次救命処置)資格保持者のいずれかを常駐させる。
- ⑩ クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う。

4 当日の対応

- 1) 各会場に WBGT 計を準備し、計測した数値により対策を講じる。
 - ・ WBGT=31℃以上の場合、試合を中止または延期する。
やむを得ず行う場合は、『JFA 熱中症対策』①～⑩を講じた上で、クーリングブレイクを行う。
 - ・ WBGT=28℃以上の場合、『JFA 熱中症対策』①～⑦を講じた上で、以下の対応を行う。
 - 1・2種 - クーリングブレイクまたは飲水タイムを行う。
 - 3・4種 - クーリングブレイクを行う。
 - ・ WBGT=25℃以上の場合、3・4種は『JFA 熱中症対策』①～⑦を講じ、以下の対応を行う。
 - 3種 - 飲水タイムを行う。
 - 4種 - クーリングブレイクまたは飲水タイムを行う。
- 2) フットサル等の試合や大会を行う場合も、上記と同様の対応を行う。ただし、屋内の場合は高湿度傾向にあるので、風通しを良くするなどの対策を講じる必要がある。
- 3) 「自由な交代」が可能な試合についても、クーリングブレイクや飲水タイムを設定する。

5 その他の対応（『JFA 熱中症対策』以外の対応）

- 1) 競技形式の変更
 - ・ 競技会規定に定められた試合時間を短縮する。
 - ・ 延長戦を行わず、PK 方式等により次回戦進出チームを決定する。
 - ・ 「自由な交代」のルールを採用する。
- 2) 水分補給
 - ・ 現場の状況に合わせて、クーリングブレイクや飲水タイムの実施回数を増やす。
- 3) 観戦者
 - ・ 観戦者向けの休憩施設や日除けの準備をする。
 - ・ 熱中症への注意喚起と症状が起きた場合の対応について、アナウンスを随時行う。
- 4) キッズ対象事業
 - ・ 延期や中止の判断基準を厳しくし、期日にも余裕をもって、参加者に開催の有無を周知する。

運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合は中止すべき。
31～35℃	28～31℃	厳重警戒 (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。 体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28～31℃	25～28℃	警戒 (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24～28℃	21～25℃	注意 (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

(公財) 日本体育協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2013) より